

宮本たかしを育てる会 NEWS

宮本たかしを
育てる会ニュース
2009新年号

宮本 たかしを育てる会

〒915-0841 福井県越前市文京二丁目15-5
電話
ファックス **0778-22-6633**



Vol.04

宮本たかしから新年のご挨拶

育てる会会員の皆様、新年、明けましておめでとうございます。
皆様におかれましては健やかに新年をお迎えの事と心よりお喜び申し上げます。

アメリカでのサブプライムローン問題に端を発した百年に一度と言う世界的な不況が日本を襲い、福井県においても企業倒産や失業者の増加など暗雲が立ち込めています。また、地元丹南地区においても新幹線南越駅、吉野瀬川ダム、丹南総合運動公園、農家の支援等、県政上の課題も山積みの状態です。このような環境の下、県議会議員に託された責任の大きさをひしひしと感じる平成21年の幕開けですが「夜は夜明け前が一番暗い」と申しますので、新年に向け県民の方々と一緒に、元気を出して議員活動にまい進したいと考えています。

皆様にとって平成二十一年が素晴らしき一年となるよう心からお祈りいたしますと共に、今後とも何卒、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



トピックス ここでは、平成20年夏から現在までの宮本俊の活動を紹介します。

☆金沢港・釜山港・博多港の三港湾視察



ガントリークレーンが並ぶ釜山港



藤本部長からのレクチャー

9月3日～7日の日程で会派の一年生、お馴染みの一休会の5人で敦賀港の活性化の参考にすべく、金沢港、釜山港、博多港の視察に参りました。現在、敦賀港のコンテナ取り扱い量は釜山の約2000分の1にしかありません。県では敦賀港に対し巨額の投資により整備、利活用拡大を計画していますが、博多港の説明でお世話になった福岡港湾局の藤本部長の「敦賀港の成功にかかるポートセールスはエベレスト登頂より難しい」という言葉が印象的でした。

☆中小企業振興条例策定検討委員会



検討会の模様

不況による企業倒産が相次ぐ中、中小企業を何とか支援できないかとの思いの下、10月30日より「中小企業支援条例」を議員立法にて策定すべく、検討委員会が持たれています。宮本たかしはこの検討会の事務局長として参加、各県の同じような条例の調査、原案に対する修正案の作成にあたっています。本年度中にこの条例を上程、成立させることにより県発注の業務が県内企業にできるだけ受注され、県内中小企業の振興の一助になることを願ってやみません。

☆議員研修／福井in神楽坂



議員気演習 第4分科会



神楽坂での福井イベントにて

11月21日、東京にて全国議長会主催の議員研修の参加、22日は東京の神楽坂で開催される「ド〜ンと福井in神楽坂 越前・若狭まつり」の視察に出向きました。東京メトロ東西線神楽坂駅の神楽坂口を出ると、道路を挟んですぐ正面にメイン会場が設営されていました。担当者の方から神楽坂と本県の関わり等について説明を受けた後、現在でも下屋敷の風情が漂う神楽坂を、飯田橋方面へと散策しました。その道中で本県の旧美

山町出身の山下さんが経営されている山下漆器店さんに立ち寄った後、越前そばの実演・販売所を訪れて蕎麦打ちを実演する皆さんを激励し、そのついでに新蕎麦を食しました。やっぱり本県の蕎麦はうまい！！

委員会について—その2

前号では福井県議会における4つの常任委員会についての説明をいたしました。今回はいわゆる特別委員会について少し述べたいと思います。

特別委員会は常任委員会と違い、ある政策課題に対しプロジェクト的に設置され課題の解決が見込まれる場合には設置の継続はなく、だいたい1、2年で設定されることが多いようです。現在、県には6つの特別委員会がありますが、そのうち予算特別委員会、決算特別委員会については常任委員会的な色合いが濃く、毎年設置されています。残り4つの特別委員会を以下にあげますが、これら特別委員会では調査がその機能であり議会上の審議、採決という手続きが取られることはありません。

新幹線・地域鉄道調査特別委員会:新幹線建設促進及び地域鉄道活性化のための調査をします。特に本県においては新幹線福井駅とえちぜん鉄道、福武線の両地域鉄道の問題は街づくり上分離しては議論できない課題であり総合的な調査を行っています。

原子力発電特別委員会:原子力発電に係る諸課題(エネルギー研究開発拠点化計画を含む)についての調査をします。本県にとって原子力は原子炉15基を有し、原子力発電に関しさまざまな課題を抱える反面、産業上の政策としてもなくてはならない存在となっています。本年度、私はこの委員会に所属しています。

地域活性化特別委員会:地域の活性化に係る総合的な対策に関する事項の調査をします。住民の価値観が多様化し行財政改革による緊縮財政が展開される中、地域による自治がどの自治体においても大きな課題となっています。

地球温暖化対策特別委員会:地球温暖化防止に係る対策(新エネルギー、CO₂吸収、生活環境、産業、交通対策)について調査をします。京都議定書を批准した日本において温暖化ガスの6%削減は成し遂げるべき目標となっており、福井県においてもその対策が迫られています。

議会活動

ここでは9月、12月議会において一般質問等を行ったテーマについて私なりの解説をさせていただきます。

☆不況対策について



現在の県政課題において最も重要なテーマは不況対策であると考えています。これは単に中小企業の社長を救うという観点ではなく、企業の雇用を守り円滑な市民生活の為には企業の存続が不可欠であるとの考え方が根底にあります。9月、12月の両議会において、企業支援が適正かつ妥当に行われているか、真に必要な企業に支援資金制度が利用されているかについて質問を行いました。質問では「銀行は晴れの日に傘を貸してくれ、雨が降ると傘を貸さない。貸した傘まで返してくれと言う。県も同じような姿勢ではないのか」という表現で強く問い質しましたが、残念ながら県が独自にその資金を提供するという制度はなく、国で用意された制度に保証料の一部負担や利子補給のための資金提供という形でのみ支援が行われていることには大きな違和感を覚えました。今年に入っても景気は予断を

許さない状況です。資金繰り安定化等の資金に対する需要はますます大きくなることが予想されます。引き続きこの問題についてはアンテナを高くしフォローしていきます。理事者からは貸し渋り、貸しはがしの案件については具体的な情報を得れば対応するとの答弁を得ていますので、皆様の中でそういったケースがあった場合には是非とも教えていただきますようお願いいたします。

☆「放課後子どもプラン／放課後児童クラブ」について

共働き世帯等の児童に対し、放課後の児童教育や居場所の提供を意図したこの二つの施策ですが、似たような取り組みを似たような場所で行っています。にも拘らず、プランでは文部科学省、クラブでは厚生労働省と監督省庁が異なるため異なる施策として実施されており、一方ではおやつが出され、他方では出されなかったり、一方では毎日行けるのに、他方では週何日と区別がされ、親御さんのみならず児童においても戸惑いがあるという声を聞く機会が何度かありましたので、国はともかく県においては一本化が図れないかとの質問を致しました。これに対し教育長からは、私が言及した問題点に関する認識はあるため、今後一本化に向けての努力を鋭意行う旨の回答を得ました。

☆吉野瀬川ダムについて

吉野瀬川ダムは平成3年に国に事業採択された公共工事です。今般の公共工事見直しに伴い、当初予定していた工業用水に関する需要はないとの結論の下、事業の見直しが行われました。工業用水に関する見直しは妥当と判断するものの、同時に工業用水のいかに関わらず絶対必要とされる治水事業の早期整備について遅延と計画変更に伴う地元負担の大幅な増加が懸念されました。治水事業の遅れを最小限にとどめ1日も早く地元住民に安心・安全を追加的な負担なく享受頂くことが今最も重要なテーマであるとの考えの下、知事に国への要請など対応を問い質しました。

知事からは自分が先頭に立ち、国に訴える旨の答弁を頂き、事実、国土交通省への陳情にも行って頂きました。この結果、12月20日には来年度予算として、同事業の治水ダムとしての採択が内示されました。